

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500720		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	なつめ
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 25 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、ともに楽しみながら毎日を過ごしています。ご利用者と一緒に食事を作ったり、洗濯をしたり、洗濯物をたたんだり、掃除をしたりといった家事を職員と一緒に、負担にならない程度に行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、できる限りご利用者のご希望に沿った想いの実現の為、毎日の対話を大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム南側の公園にあるベンチを談笑の場としたり、近所の庭の梅の花を観て楽しんだりしている。法人理念の「自立と共生の権利を尊ぶ」を基に、それぞれが本人の意思で自分の物語を紡いで人生を作り出せる「ナラティブな関わり」を念頭に支援している。起床や朝食などは自己決定に配慮して各々のペースに合わせ、2階のベランダで産まれた燕の巣立ちを共に見守る等、入居者に寄り添っている。面会に制限が無く本人の様子や職員との連絡も取れると家族に喜ばれ、丁寧にキビキビした対応に安心している。職員がストレスを抱えないよう管理者が気を配っている風通しの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームゆかりの杜**)「ユニット名 **なつめ** 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」事を目標に継続しています。一人ひとりの想いに耳をかたむけ、誰もが自分の人生の主人公として主体的に生き、価値を認められて人とつながりながら生きる権理を応援することを目標に考え、職員と共有しています。	法人理念の「権理」や入居者の存在を大切に「ご本人と豊かな生活を築こう」を目指している。年度初めに全職員で検討し振り返っている。地域に根ざし、住み慣れた「もう一つの我が家」である事を念頭に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。コロナウイルス感染対策を行いながら、地域で行われている行事への参加も少しずつ出来るようになってきました。地域清掃や公園の花壇手入れ、回覧板、近隣公園で犬の散歩されている方のお話等で地域の情報を収集しています。	ゴミ出し時や玄関の掃除の際に近隣の方から声を掛けられ、挨拶や情報交換などを行っている。入居を考えている方から、入居者の過ごし方やコロナ感染対策、平均的介護度などの問い合わせがあり対応した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせの際や直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症に対する対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防に努めつつ、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等についてを対面・書面でお伝えしています。	偶数月に年6回開催した。町内会長や民生委員、地域包括職員、入居者がメンバーである。日常の様子や活動、行事などを報告している。入居者から、楽しく過ごしている事や燕の巣立ちを見守りたい等の発言があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組みの対面や書面で報告するとともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	介護認定更新や事故報告、生活保護の方の状況報告や更新手続き等で行く。生活保護の方の住宅扶助の申請などについて助言をもらった。地域包括職員に近隣の集合住宅との関係性の構築を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束廃止のための委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施しております。中途入職した際には都度、勉強会を開催し理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整え、お散歩希望の方とは一緒に外出し気分転換を図っています。	委員会でスピーチロック事例の原因分析や対策、その後の効果などを検討している。「11項目3原則」をもとに研修をしている。気付かずに拘束してしまう事がないよう心掛け「どうされましたか」等のやわらかい言葉遣いで穏やかに話すよう実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	虐待防止検討委員会を2回開催した。法人のマニュアルの確認や読み合せ等をしている。不適切ケアになっていないかを研修や日々の声掛け等で確認し、風通しの良い環境でフォロー仕合えるよう実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡、書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の中で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを説明しながら確認し、ご理解をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、毎月発行する「社だより」で、ご利用者の最近の様子や写真を載せたものをお渡ししています。ご意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、時間を置かず改善に努めています。	一人ひとりの様子を伝える「社だより」や、今月の笑顔大賞掲載の「ゆかりの杜新聞」が喜ばれている。好きな菓子の持参や外出泊などに応じている。家族提供のCDやDVDを視聴し、皆で楽しんでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、法人全体でのアンケートや事業所ミーティング、連絡ノートに記入するなどし職員の意見を聞き、事業所運営に反映できるように努めています。	日々のケアの中で聞く事もある。居室用の掃除機をコードレスにして使い勝手が良くなった。家族持参の体操用DVDを皆で毎朝夕使い、好評である。研修の参加やチャレンジ制度、資格取得などの法人の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようになっております。また、新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの流行状況に配慮しながら可能な限り必要に応じて系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、助言をいただいたり、評価いただいたりする機会を設けています。	法人内のオンラインで介助研修や管理者研修で交流し、スキルアップや運営の改善に役立っている。歯科衛生士から舌の磨き方や歯磨き粉の情報を得た。福祉用具の職員に車椅子の不具合を相談した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との事前面談を通し、ご本人の想いや考えを聴き取りながら、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう日々の関わりや会話を第一に心掛け、具体的な要望をお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に真摯に向き合っています。その際、事業所で何ができるのか多職種で意見交換、情報共有もしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、地域連携室、居宅介護支援事業所や利用していた施設から現状の情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。ご本人やご家族の想いに耳を傾け、状況に応じて必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事やこれまでお好きだった趣味活動、役割を通じて自分らしい生活を送れるようにしています。適宜職員間で話し合いの機会を持ち、その方を中心に私たちにできることは何か話し合い、入居者同士の関係性構築にも配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活の様子を伝えたり、毎月発行している「杜だより」に写真を添付してお届けしています。またイベントを入居者と一緒に計画・実施しています。気になったことや嬉しいこと等、小さな事でもこまめに報告の電話をしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策のため、面会に来られた方の体調を確認させていただきますが、面会の制限等はなく、お部屋等で面会して頂いています。また電話でお話をして頂いたり、LINEやZoomを使つてのテレビ電話面会のご案内も継続して行っています。	東照宮や加茂神社はいつもの外出場所となっている。菓子や日用品を買いに車で同行している。昔からの床屋に行く方もいる。入居後に新しい馴染みとなった男性同士がノンアルコールビールで乾杯する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や仕草等からご本人同士の関係性把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。可能な限り外出や季節行事を通して交流できる機会を設け、職員が間に入りながら会話や穏やかに居心地よく過ごせるよう関わらせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族と電話や年賀状で近況をお伺いしています。入院先から転居されたご家族とは電話でのやり取りも継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から、またはご家族からご本人の想いを汲み取り、間を置かず職員間で情報共有しています。その方にとって居心地よく、自分らしく生活が継続できるよう努めています。	入居者の言動を静かに見守り、声かけの言葉選びにいつも気を配り、意向を把握している。意志表示が困難な方の甘い物好きを知り、飴などで叶えた。ベランダの軒下で産まれた燕の成長を喜ぶ方に寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をしながらバックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう職員間でも情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・お手伝いが必要なことを把握し、できないところを補うように努めています。その方の過ごし方については個人記録や日々の申し送りで伝達し、健康状態なども含めて職員全員が把握できるよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を適宜確認しながら、ケアカンファレンスを開催し介護計画を作成しています。ご自分の想いを上手く表現できない方については、日常会話や活動等で情報収集に努め、ご本人の立場に立ち作成しています。	短期は3ヵ月、長期は6ヵ月で見直し、検討やモニタリングを経て作成する。医師の意見から血圧や無呼吸症候群に注意する事をプランに入れた。本人や家族の「活動的に」に楽しみながら絵を描く事や観る等を計画した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてこまめに記録し、職員間で情報を共有しています。関わりの工夫、ご本人の状態に変化があれば職員間で都度、情報共有し、介護計画に反映させ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やその時々々の状況に合わせて、買い物、通院、個別の外出の機会を設けています。その時々にも生まれるニーズに対しては、他ユニット職員とも連携し、柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握したり、適宜、町内会長や地域包括支援センターの職員や民生委員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を継続するとともに、ご家族の状況に合わせて、ご家族の対応が難しい場合には職員が付き添いを行っています。ご家族受診の際は、報告経過報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	入居前からのかかりつけ医の2名以外は月2回の訪問診療を利用している。専門医へは紹介状持参で受診している。訪問歯科医が週1回来る。看護職員が配置され、24時間の連絡体制が確保されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について小さな変化を見逃さないよう少しの変化でも、訪問看護ステーションの看護師と情報共有しています。体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。また情報共有ノートに記入し、誰でもわかるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に事前に搬送先のご希望をお伺いしております。入院時のサマリー作成を通し、病院関係者と連携し安心して入院生活を送れるよう関係作りを努めています。退院の際は関係者と連絡を取り合いながら退院後の支援方法を職員と共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。人生会議を開催しその場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を説明し医師や関係者とも連携を図りながら希望を伺っています。	「重度化した場合における対応(看取り介護)に関する指針」を入居時に説明し、同意を得ている。看取り期になった時は、再度同意を得ている。今年は2名を看取り、振り返りをした。看取りの共通認識を持てるよう管理者や法人職員などが研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して訪問看護ステーションの看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを重ねていきたいと思ひます。	夜間や地震を含む3回の訓練やハザードマップ上で水害の訓練をした。駆けつけた方は2階の非常口から入る事や、2階からの避難は繰り返しやる事などの反省があった。地域住民へ見守り協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、相手の立場になって考えながら関わっています。不適切な応対になっていないか職員間でお互い確認し合ったり、ミーティング等で振り返る機会を設けています。	入室時はノックをし「さん」付けて呼び掛け、許可を得ている。自分事として捉えながら、それぞれに合わせて言葉を選んでいる。話すスピードや声のトーン、ニュアンス等に気を配っている。意向を汲んだ同性介助もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中から、ご本人の思いや希望を把握できるよう努めています。またご家族への聞き取りやアセスメントを把握し、合理的配慮(筆談なども交え)を考えながら、自己決定できるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、その方の意向に沿うことが出来るよう支援しています。また、起床時間や就寝時間、朝食についても各々の時間に合わせて対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族からお好みの装いを伺い、化粧品も日ごろ使用していたものをご持参いただいたり在宅時と変わらないようサポートしています。その日の装いはご本人に決めていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは適宜ご希望をお伺いしながら献立を作成して、一緒に行える方とは調理からお片付けまで協力して頂いております。思い出の食事について(クリスマスや誕生日等)を伺いながら計画・実行に移すことで喜んで頂けていました。	献立は入居者の希望を聞き職員が立て、食材は宅配業者を利用している。入居者は切る・炒める等の調理や配膳下膳、後片付け等を担っている。誕生日に本人の希望の海鮮丼を皆で食べ、歌って笑ってお祝いました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病や体重を考慮し、必要時は主治医に相談をしながら食事や水分量の調整を行っています。体調に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。栄養確保が難しい方には捕食で補うようご用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人おひとりの生活習慣を考慮し、口腔ケアの声がけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。食後の緑茶飲用も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表から排泄サインや排泄のリズム、尿量も職員全員で把握できるようにし、その方に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。布パンツへの変更は可能かの検討も適宜行っております。	日中オムツ使用の2名の方以外はトイレで排泄している。小さい声で「ちょっと」等の声掛けで誘導する。失敗時はその方に合わせた言葉を選び、居室やトイレに誘っている。夜間はポータブルトイレ使用の方が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず水分量の確保や乳製品を取り入れて、自然排便ができるよう努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の希望に応じて入浴を行っています。夕食後に入りたいとご希望があった際は出来る限りご希望の時間に入れるように対応しています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、職員がお手伝いに入りながら一緒に準備ができるよう配慮しています。入浴剤についても好みのものを選んでいただき匂いや湯舟の色を楽しんで頂いております。	週2回、午前中の中の入浴である。自立の方は見守り、ドアを閉めたり体にタオルをかけてプライバシーに配慮している。ゆず湯やバラの香りが喜ばれている。リフト浴で車椅子の方も安心して気持ち良く入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中の過ごし方を考え安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には傾聴し、安心できるよう声掛けを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、気になることがあれば適宜、看護職員や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎夕、晩酌を楽しみにされている方にはノンアルコールビールをご用意しています。またご本人のお誕生日には、ご本人に沿ったご希望に沿ったケーキやお好みのメニューを用意しています。ご本人の気持ちを尊重しながら掃除や洗濯物たたみ等の家事作業を通し、やりがいを感じていただいております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながら少しづつではありますが、外出の機会は増えています。近所への散歩やご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。お花見や紅葉見学等、思い出の地を伺いながら参加して頂いていました。	近くの公園や東照宮で花見をし、紅葉見物は東照宮や加茂神社に出掛けた。近くのコンビニで買物をしている。ホームのベランダで芋煮会を楽しんだり、プランターの花の世話やベンチで談笑する方がいる。家族と墓参りや法事などに行く方や外泊する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物へ行った際、お好きな物を選んで頂きご自身でお支払いできるようお願いしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に品物を選び、その場でお支払い内容を説明したり、一緒に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と連絡が取りたいというご本人からの要望があった際には、ご本人から電話できるように支援しています。手紙についても、年賀状やハガキにご本人の想いを代筆しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が準備して下さったCDやDVDと一緒に鑑賞しています。コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っていますが、室温が快適であるよう適宜確認しながら冷暖房の調整を行っています。毎月、季節に合った飾りを入居者の皆さんと一緒に設えています。	南窓から日差しが入り、明るく心地良い。入居者の作ったピンクやブルーの春色の折り鶴が季節を感じさせる。ユニットの入口に張り渡した入居者の写真が来訪者を出迎えてくれる。おしゃべりや歌、体操、パズル等をして日中の殆どを過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とテーブルを囲めるようにしていますが、その日毎に座る場所はご本人に決めていただいています。また陽当たりの良い場所にテーブルやソファを設置し、くつろげる空間作りに配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今までご自宅で使用していたなじみの物をご持参いただいています。また家族写真や趣味で作成した絵等の作品を掲示し、その方の個性に合わせたお部屋作りを支援しています。	備え付けはベッドやクローゼット、洗面台、トイレ等である。スタンドグラスのスタンドやアールヌーヴォー等の美術の本、自画像等を持ち込み、その方らしい自室となっている。隣家の満開の梅を窓越しに愛でる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの家具や調度品を配置し、居室ドアには表札等を付けて、自室だとわかるようにしています。ご本人の力を活用できるよう動線や室内環境に配慮し個別に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500720		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	あやめ
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 25 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、ともに楽しみながら毎日を過ごしています。ご利用者と一緒に食事を作ったり、洗濯をしたり、洗濯物をたたんだり、掃除をしたりといった家事を職員と一緒に、負担にならない程度に行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、できる限りご利用者のご希望に沿った想いの実現の為、毎日の対話を大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム南側の公園にあるベンチを談笑の場としたり、近所の庭の梅の花を観て楽しんだりしている。法人理念の「自立と共生の権利を尊ぶ」を基に、それぞれが本人の意思で自分の物語を紡いで人生を作り出せる「ナラティブな関わり」を念頭に支援している。起床や朝食などは自己決定に配慮して各々のペースに合わせ、2階のベランダで産まれた燕の巣立ちを共に見守る等、入居者に寄り添っている。面会に制限が無く本人の様子や職員との連絡も取れると家族に喜ばれ、丁寧にキビキビした対応に安心している。職員がストレスを抱えないよう管理者が気を配っている風通しの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆかりの杜)「ユニット名 あやめ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」事を目標に継続しています。一人ひとりの想いに耳をかたむけ、誰もが自分の人生の主人公として主体的に生き、価値を認められて人とつながりながら生きる権理を応援することを目標と考え、職員と共有しています。	法人理念の「権理」や入居者の存在を大切に「ご本人と豊かな生活を築こう」を目指している。年度初めに全職員で検討し振り返っている。地域に根ざし、住み慣れた「もう一つの我が家」である事を念頭に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。コロナウイルス感染対策を行いながら、地域で行われている行事への参加も少しずつ出来るようになってきました。地域清掃や公園の花壇手入れ、回覧板、近隣公園で犬の散歩されている方のお話等で地域の情報を収集しています。	ゴミ出し時や玄関の掃除の際に近隣の方から声を掛けられ、挨拶や情報交換などを行っている。入居を考えている方から、入居者の過ごし方やコロナ感染対策、平均的介護度などの問い合わせがあり対応した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせの際や直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症に対する対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナウイルス感染予防に努めつつ、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等についてを対面・書面でお伝えしています。	偶数月に年6回開催した。町内会長や民生委員、地域包括職員、入居者がメンバーである。日常の様子や活動、行事などを報告している。入居者から、楽しく過ごしている事や燕の巣立ちを見守りたい等の発言があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組みの対面や書面で報告するとともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	介護認定更新や事故報告、生活保護の方の状況報告や更新手続き等で行く。生活保護の方の住宅扶助の申請などについて助言をもらった。地域包括職員に近隣の集合住宅との関係性の構築を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束廃止のための委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施しております。中途入職した際には都度、勉強会を開催し理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整え、お散歩希望の方とは一緒に外出し気分転換を図っています。	委員会でスピーチロック事例の原因分析や対策、その後の効果などを検討している。「11項目3原則」をもとに研修をしている。気付かずに拘束してしまう事がないよう心掛け「どうされましたか」等のやわらかい言葉遣いで穏やかに話すよう実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	虐待防止検討委員会を2回開催した。法人のマニュアルの確認や読み合せ等を行っている。不適切ケアになっていないかを研修や日々の声掛け等で確認し、風通しの良い環境でフォロー仕合えるよう実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡、書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の場で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを説明しながら確認し、ご理解をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、毎月発行する「社だより」で、ご利用者の最近の様子や写真を載せたものをお渡ししています。ご意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、時間を置かず改善に努めています。	一人ひとりの様子を伝える「社だより」や、今月の笑顔大賞掲載の「ゆかりの社新聞」が喜ばれている。好きな菓子の持参や外出外泊などに応じている。家族提供のCDやDVDを視聴し、皆で楽しんでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、法人全体でのアンケートや事業所ミーティング、連絡ノートに記入するなどし職員の意見を聞き、事業所運営に反映できるように努めています。	日々のケアの中で聞く事もある。居室用の掃除機をコードレスにして使い勝手が良くなった。家族持参の体操用DVDを皆で毎朝夕使い、好評である。研修の参加やチャレンジ制度、資格取得などの法人の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようになっております。また、新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの流行状況に配慮しながら可能な限り必要に応じて系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、助言をいただいたり、評価いただいたりする機会を設けています。	法人内のオンラインで介助研修や管理者研修で交流し、スキルアップや運営の改善に役立てている。歯科衛生士から舌の磨き方や歯磨き粉の情報を得た。福祉用具の職員に車椅子の不具合を相談した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との事前面談を通し、ご本人の想いや考えを聴き取りながら、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう日々の関わりや会話を第一に心掛け、具体的な要望をお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に真摯に向き合っています。その際、事業所で何ができるのか多職種で意見交換、情報共有もしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、地域連携室、居宅介護支援事業所や利用していた施設から現状の情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。ご本人やご家族の想いに耳を傾け、状況に応じて必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事やこれまでお好きだった趣味活動、役割を通じて自分らしい生活を送れるようにしています。適宜職員間で話し合いの機会を持ち、その方を中心に私たちにできることは何か話し合い、入居者同士の関係性構築にも配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活の様子を伝えたり、毎月発行している「杜だより」に写真を添付してお届けしています。またイベントを入居者と一緒に計画・実施しています。気になったことや嬉しいこと等、小さな事でもこまめに報告の電話をしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策のため、面会に来られた方の体調を確認させていただきますが、面会の制限等はなく、お部屋等で面会して頂いています。また電話でお話をして頂いたり、LINEやZoomを使つてのテレビ電話面会のご案内も継続して行っています。	東照宮や加茂神社はいつもの外出場所となっている。菓子や日用品を買いに車で同行している。昔からの床屋に行く方もいる。入居後に新しい馴染みとなった男性同士がノンアルコールビールで乾杯する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や仕草等からご本人同士の関係性把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。可能な限り外出や季節行事を通して交流できる機会を設け、職員が間に入りながら会話や穏やかに居心地よく過ごせるよう関わらせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族と電話や年賀状で近況をお伺いしています。入院先から転居されたご家族とは電話でのやり取りも継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から、またはご家族からご本人の想いを汲み取り、間を置かず職員間で情報共有しています。その方にとって居心地よく、自分らしく生活が継続できるよう努めています。	入居者の言動を静かに見守り、声がけの言葉選びにいつも気を配り、意向を把握している。意志表示が困難な方の甘い物好きを知り、飴などで叶えた。ペランダの軒下で産まれた燕の成長を喜ぶ方に寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をしながらバックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう職員間でも情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・お手伝いが必要なことを把握し、できないところを補うように努めています。その方の過ごし方については個人記録や日々の申し送りや伝達し、健康状態なども含めて職員全員が把握できるよう努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を適宜確認しながら、ケアカンファレンスを開催し介護計画を作成しています。ご自分の想いを上手く表現できない方については、日常会話や活動等で情報収集に努め、ご本人の立場に立ち作成しています。	短期は3ヵ月、長期は6ヵ月で見直し、検討やモニタリングを経て作成する。医師の意見から血圧や無呼吸症候群に注意する事をプランに入れた。本人や家族の「活動的に」に楽しみながら絵を描く事や観る等を計画した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてこまめに記録し、職員間で情報を共有しています。関わりや工夫、ご本人の状態に変化があれば職員間で都度、情報共有し、介護計画に反映させ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やその時々状況に合わせて、買い物、通院、個別の外出の機会を設けています。その時々生まれるニーズに対しては、他ユニット職員とも連携し、柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握したり、適宜、町内会長や地域包括支援センターの職員や民生委員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を継続するとともに、ご家族の状況に合わせて、ご家族の対応が難しい場合には職員が付き添いを行っています。ご家族受診の際は、報告経過報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	入居前からのかかりつけ医の2名以外は月2回の訪問診療を利用している。専門医へは紹介状持参で受診している。訪問歯科医が週1回来る。看護職員が配置され、24時間の連絡体制が確保されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について小さな変化を見逃さないよう少しの変化でも、訪問看護ステーションの看護師と情報共有しています。体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。また情報共有ノートに記入し、誰でもわかるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に事前に搬送先のご希望をお伺いしております。入院時のサマリー作成を通し、病院関係者と連携し安心して入院生活を送れるよう関係作りを努めています。退院の際は関係者と連絡を取り合いながら退院後の支援方法を職員と共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。人生会議を開催しその場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を説明し医師や関係者とも連携を図りながら希望を伺っています。	「重度化した場合における対応(看取り介護)に関する指針」を入居時に説明し、同意を得ている。看取り期になった時は、再度同意を得ている。今年度は2名を看取り、振り返りをした。看取りの共通認識を持てるよう管理者や法人職員などが研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して訪問看護ステーションの看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを重ねていきたいと思っております。	夜間や地震を含む3回の訓練やハザードマップ上で水害の訓練をした。駆けつけた方は2階の非常口から入る事や、2階からの避難は繰り返しやる事などの反省があった。地域住民へ見守り協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、相手の立場になって考えながら関わっています。不適切な応対になっていないか職員間でお互い確認し合ったり、ミーティング等で振り返る機会を設けています。	入室時はノックをし「さん」付けて呼び掛け、許可を得ている。自分事として捉えながら、それぞれに合わせて言葉を選んでいる。話すスピードや声のトーン、ニュアンス等に気を配っている。意向を汲んだ同性介助もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中から、ご本人の思いや希望を把握できるよう努めています。またご家族への聞き取りやアセスメントを把握し、合理的配慮(筆談なども交え)を考えながら、自己決定できるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、その方の意向に沿うことが出来るよう支援しています。また、起床時間や就寝時間、朝食についても各々の時間に合わせて対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族からお好みの装いを伺い、化粧品も日ごろ使用していたものをご持参いただいたり在宅時と変わらないようサポートしています。その日の装いはご本人に決めていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは適宜ご希望をお伺いしながら献立を作成して、一緒に行える方とは調理からお片付けまで協力して頂いております。思い出の食事について(クリスマスや誕生日等)を伺いながら計画・実行に移すことで喜んで頂けていました。	献立は入居者の希望を聞き職員が立て、食材は宅配業者を利用している。入居者は切る・炒める等の調理や配膳下膳、後片付け等を担っている。誕生日に本人の希望の海鮮丼を皆で食べ、歌って笑ってお祝いした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病や体重を考慮し、必要時は主治医に相談をしながら食事や水分量の調整を行っています。体調に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。栄養確保が難しい方には捕食で補うようご用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人おひとりの生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。食後の緑茶飲用も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表から排泄サインや排泄のリズム、尿量も職員全員で把握できるようにし、その方に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。布パンツへの変更は可能かの検討も適宜行っております。	日中オムツ使用の2名の方以外はトイレで排泄している。小さい声で「ちょっと」等の声掛けで誘導する。失敗時はその方に合わせた言葉を選び、居室やトイレに誘っている。夜間はポータブルトイレ使用の方が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず水分量の確保や乳製品を取り入れて、自然排便ができるよう努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の希望に応じて入浴を行っています。夕食後に入りたいとご希望があった際は出来る限りご希望の時間に入れるように対応しています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、職員がお手伝いに入りながら一緒に準備ができるよう配慮しています。入浴剤についても好みのものを選んでいただき匂いや湯舟の色を楽しんで頂いております。	週2回、午前中の中の入浴である。自立の方は見守り、ドアを閉めたり体にタオルをかけてプライバシーに配慮している。ゆず湯やバラの香りが喜ばれている。リフト浴で車椅子の方も安心して気持ち良く入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中の過ごし方を考え安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には傾聴し、安心できるよう声掛けを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、気になることがあれば適宜、看護職員や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎夕、晩酌を楽しみにされている方にはノンアルコールビールをご用意しています。またご本人のお誕生日には、ご本人に沿ったご希望に沿ったケーキやお好みのメニューを用意しています。ご本人の気持ちを尊重しながら掃除や洗濯物たたみ等の家事作業を通し、やりがいを感じていただいています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながら少しずつではありますが、外出の機会は増えています。近所への散歩やご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。お花見や紅葉見学等、思い出の地を伺いながら参加して頂いていました。	近くの公園や東照宮で花見をし、紅葉見物は東照宮や加茂神社に出掛けた。近くのコンビニで買物をしている。ホームのペランダで芋煮会を楽しんだり、プランターの花の世話やベンチで談笑する方がいる。家族と墓参りや法事などに行く方や外泊する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物へ行った際、お好きな物を選んで頂きご自身でお支払いできるようお手伝いしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に品物を選び、その場でお支払い内容を説明したり、一緒に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と連絡が取りたいというご本人からの要望があった際には、ご本人から電話できるように支援しています。手紙についても、年賀状やハガキにご本人の想いを代筆しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が準備して下さったCDやDVDと一緒に鑑賞しています。コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っていますが、室温が快適であるよう適宜確認しながら冷暖房の調整を行っています。毎月、季節に合った飾りを入居者の皆さんと一緒に設えています。	南窓から日差しが入り、明るく心地良い。入居者の作ったピンクやブルーの春色の折り鶴が季節を感じさせる。ユニットの入口に張り渡した入居者の写真が来訪者を出迎えてくれる。おしゃべりや歌、体操、パズル等をして日中の殆どを過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とテーブルを囲めるようにしていますが、その日毎に座る場所はご本人に決めていただいています。また陽当たりの良い場所にテーブルやソファを設置し、くつろげる空間作りに配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今までご自宅で使用していたなじみの物をご持参いただいています。また家族写真や趣味で作成した絵等の作品を掲示し、その方の個性に合わせたお部屋作りを支援しています。	備え付けはベッドやクローゼット、洗面台、トイレ等である。スタンドグラスのスタンドやアールヌーヴォー等の美術の本、自画像等を持ち込み、その方らしい自室となっている。隣家の満開の梅を窓越しに愛でる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの家具や調度品を配置し、居室ドアには表札等を付けて、自室だとわかるようにしています。ご本人の力を活用できるよう動線や室内環境に配慮し個別に支援しています。		